穂岐山刃物 株式会社

所在地：〒782-0039 高知県香美市土佐山田町栄町３-15
ＴＥＬ：0887-53-5111　ＦＡＸ：0887-53-5115
E-mail：info@hokiyama.com
ＵＲＬ：http://www.hokiyama.com
設　立：1957年（昭和32年）11月１日
社員数：39名　資本金：3,500万円

代表取締役
穂岐山　信介

企業概要　包丁や鎌、鍬などあらゆる刃物の製造及び販売を行っており、500年の歴史を持つ「土佐打刃物」の伝統を守りながら、新たな技術や素材を取り入れ、日本でも数少ない刃物総合メーカーとして国内外から技術力と品質に高い評価を受けている。

ものづくり技術：一般型　試作開発＋設備投資

青紙スーパー鋼、高知県産木材を利用したキッチンナイフ及び収納スタンド等の製品開発と生産設備の導入事業

事業計画概要

日立金属安来青紙スーパー鋼クラッド材をブレードに使用した包丁を和風・洋風両方のデザインでシリーズ化するための商品開発を行う。金型・自動溶接機・ボール盤等を導入し、当該製品の試作を行い、別途まな板及び包丁スタンド等も併せて試作開発し、統一イメージでの「SAKON」のブランド化を進め、国内・海外市場での販路拡大を目指す。

事業取組みの経緯

近年のキッチンナイフ業界においては、多くの商品が乱立しており、各社自社製品のブランディングに力を注いでいる。

土佐刃物は地場産業としての長い歴史を通じ、国産ブランド鋼である日立金属安来鋼を使用した製品群で高い耐久性と切れ味を実現し、市場においても高い信頼を得てきた。

当社は刃物のプロとしてこれまで培ってきた技術と信頼を基に、本物指向の玄人に好まれる包丁を作りたいと考え、安来鋼の中でも最高峰となる青紙スーパー鋼を中心に両側をステンレス層で挟み込んだ三層クラッド鋼材を刃部に使用した包丁開発を企画した。

また、世界においてナイフメーカーとしてのブランドを確立するには包丁自体が差別化され魅力的であるだけでなく、海外では必須といえる収納スタンドや、まな板、砥石などの関連アイテムを含めた単一ブランドに統一させ、シリーズ化してゆく戦略が極めて重要である。幸い、高知県には四万十檜や、高級車のステアリングハンドルに使用される竹集成材などがある。これら県内木製品メーカーと協力し、当社デザインのキッチン関連商材を開発し、包丁戦略ブランドである「左近」あるいは「SAKON」のネーミングを冠して、総合的にブランディングを進めたいと考えた。

実施内容

①青紙スーパー鋼の熱処理実験

同鋼材のポテンシャルを活かすHRC硬度64度※の実現を狙って実験を行った。

※HRCとは工業材料の硬さを計るロックウェル硬さの試験単位で、度数が上がるほど硬く一般家庭用包丁では57～59度である。

②溶接機導入・設置及び調整

導入した自動溶接機ユニットにて開発シリーズ中の出刃モデルを対象に、刃となるクラッド鋼材部とボディ用ステンレス鋼材の溶接作業を行った。

③抜き金型作成及びプレス機への設置

洋風・和風両シリーズの開発モデル及び革小物製造現場用皮裁包丁の関連抜き金型を製作し、ブレード試作を進めた。

④鎚目打刻金型の導入及び打刻試作

洋風シリーズのブレードには、刃部表面に凹凸の起伏を与えるプレス加工を施し、三徳型モデルを試作した。

⑤和風モデル用の柄と鞘の開発

高知県産の竹集成材を使用し、ブレードのサイズバリエーションに合わせてのハンドルと専用鞘試作加工を香美市内の木工所で行った。

⑥まな板・包丁スタンドの開発

デザイン会社にて複数の素案デザインを作成し、最終的に須崎市の木工メーカーにて試作品を完成させた。

⑦プロダクト・デザイン開発

上述のすべての各試作加工と同時進行にてデザイン会社と合議しながら包丁・まな板・包丁スタンドの細かな仕様を決定していった。

事業取組みの成果

青紙スーパー鋼の熱処理実験において、既存設備の改良、加熱処理時間の調整にて満足できる硬度結果が得られ、併せて量産時の安定した連続作業性も実現できると判断できた。

導入した溶接機については、既設の溶接ロボットと比較しても同一作業内容で１時間当たりの加工数量が約1.4倍に増加した。操作に慣熟すれば更なる増加が見込まれ、かつ正確性含め、円滑な作業性で今後の生産活動に寄与することは確実である。

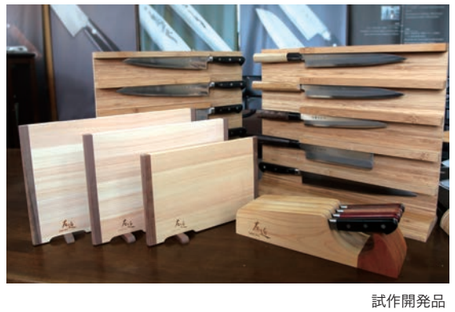
導入した自動溶接機ユニット

洋風モデル（ペティ３種、三徳、牛刀）５種と和風モデル（三徳、菜切、牛刀３種、筋引）６種および皮裁包丁の試作を進め、洋風モデルの三徳型についてはブレード表面の鎚目の打刻により、高級な風合いと見た目の斬新性を与えることができた。

和風シリーズについてもデザイン会社と合議の上、八角形の持ち手デザインに決定。更に、ブレード固定用リベットには細かなステンレスパイプを多重に組み合わせたモザイクピンを採用。装飾的要素が加わり製品の高級感を増すことができた。また同素材の竹集成材の鞘を組み合わせることで、一体感の出る和風シリーズ専用鞘となった。

デザイン性の高いモザイクピン

まな板、包丁収納スタンドや包丁ラックは利便性、デザイン性の両立にこだわり、まな板は四万十桧と胡桃材の組み合わせとし、スタンドは横置き収納デザインにて試作、中でもマグネットを用いて包丁を吊るすスタイルで開発したラックは海外・国内見本市にてその斬新性・機能性で極めて高い評価を得た。



試作開発品

製品内容

左：青紙スーパー鋼洋風シリーズ

左３種が三徳型という万能タイプ。ハンドルカラーにバリエーションを持たせ全て鍔付きで堅牢なリベット３点止め。右の２種はペティナイフと牛刀210mm。最終的には菜切、筋引モデルを加え全12種で展開予定。シリーズ名は「土佐一碧（とさいちあお）」と決定。

右：青紙スーパー鋼和風シリーズ

中央が竹集成材にモザイクピンをあしらい、更に竹鞘を組み合わせた試作品。和包丁は自由に様々なハンドルを組み合わせ、専門店の希望にあわせた仕様に変化させることができるようブレードのみでも供給（右の２本）。納品先メーカーや業者が独自のハンドルを付けて販売することも可能である。

今後の活動予定

刃部表面に施した斑点状凸凹鎚目模様で視覚的差別化を図ることができたが、今後も継続的に魅力的な鎚目紋様開発を続行する。

桜材で試作した横置き包丁スタンドは、時間を経て問題が発生したため、構造デザインを根本的に見直して開発を続ける。

今後、更に新製品を充実させ、世界中のバイヤーが集結するフランクフルトAmbiente、北米でのFood Expo、東京ビッグサイトでのインテリア・ライフスタイルショー等にて新規顧客を獲得しながら、ブランディングを進めてゆく。

販売計画

本事業の安来青紙スーパー鋼を使用した開発商品群はサイズ展開がプロ・業務用を意識したものであり、東京合羽橋、大阪道具屋筋に代表される厨房機器専門店ルートを第一ターゲットに、全国利器工匠具卸問屋、百貨店卸、金物小売店ルートにも並行して販売していく。主体を国内市場とし、海外市場への訴求は既存の輸出先を中心に案内する。

青紙スーパー鋼製品は適切なケアを怠れば錆が発生するため、錆びやすい安来鋼に対して馴染みの薄い海外市場への拡販には現地業者の正しい専門的理解が不可欠である。新規顧客には見本市への継続的出展を通じて、徐々に鋼材性能を認知させながらメンテナンス手法を啓蒙することも必須と考えている。